

ふるさと自慢（大村地区の史跡②）



大村藩お船蔵跡（県指定史跡）
 玖島城に付属した「お船蔵」で、元禄年間（1688年～1703年）の初め、4代藩主大村純長の時に、この地に移設されたものです。

当時は陸上の交通手段が限られていた時代であり、海上輸送に依存するところが大きく、築港と船蔵の建設が必要になったものと思われます。

藩船には藩主が乗る御座船をはじめ、兵員の輸送船や物資の運搬船などがあり、ここに格納しました。

この船蔵には3本の船渠（ドック）があり、1本の長さは31メートル、幅は8.4メートルで、船蔵屋（屋根）の礎石や石垣が残っています。船蔵は、多くの藩に設けられていますが、原形のまま保存されているものは極めて少なく、貴重な遺構です。

なお、東側の現在の教育センターの場所には、「米蔵」や「硝石小屋」などがありました。（参考：大村市HP）

やめよう！ながらスマホ

スマホや携帯の操作をしながら歩いたり自転車や自動車を運転したりする「ながらスマホ」は絶対にやめましょう。

昨年の12月1日から改正施行された道路交通法では、運転中にスマホを手を持って操作しただけでも、それまでの約3倍の違反点数（1点→3点）と反則金（普通車で6000円→18000円）になりました。



子ども会 入会をお待ちしています



市子ども会事務局 ☎54-3161（市コミセン内）

3月3日は雛祭り

ひな祭りは女の子のための行事。女兒の初節句には、ひな人形を用意し、女の子の健やかな成長と幸せを願いながら、**ちらしずしや蛤の吸いもの、ひし餅や雛あられ**といったごちそうをいただきながらお祝いをします。



ひな祭りの起源は、中国の五節の一つである「上巳（じょうし・じょうみ）節」にあると言われています。上巳とは旧暦で3月上旬の巳の日の事ですが、後に3月3日となりました。昔、中国ではこの日に水辺で穢れを祓う習慣があったのです。

これが日本に伝わり、平安時代には、紙でつくった人形に自分の穢れを移して身代わりにし、水に流して厄を祓う「流し雛」が行われるようになりました。また、平安時代の宮中では、貴族の子どもが小さなお人形で遊ぶ「ひいな遊び」を行っていました。「雛（ひいな）」は小さくてかわいらしいものという意味で、ひな祭りの“ひな”の古語です。

これらが結びついて、人の厄を身代わりする男女一對の紙人形ができます。これがひな人形の原型といわれています。室町時代になると人形が立派になって、流すものから飾るものとなり、上流階級の子どもの嫁入り道具のひとつにもなりました。

江戸幕府が3月3日を「桃の節句」と定めると女の子の節句として定着していきます。人形も紙のものから次第に豪華なものへと変化していき、その風習は宮中から武家社会、裕福な家へと広がり今のひな祭りに近い形になっていきました。

ちなみに、ひし餅や雛あられの三色は、魔よけの色ともいわれ健康を願う桃色、純粋さ清らかさを表す白色、生命力あふれる若草を表す緑色となっています。

また、お吸い物にする蛤は同じ貝殻でないとぴったりと合わないことから、一人の人と夫婦円満で連れ添うようにとの願いが込められています。このように、子の成長を願う親心が込められていることを知ると、ありがたみが増してきますね。

（参考：豆知識PRESS）

ラジオ体操を毎日の習慣に！

ラジオ体操は、全身運動の最高峰といわれます。運動不足解消に、毎日続けてみませんか。



3月の補導巡視活動（大村地区） ☆ ありがとうございます ☆

大村地区	三城地区	旭が丘・東大村地区
3/13（金）市民交流プラザ 3/27（金）イオン大村店 いずれも 18:30	3/14（土）市民交流プラザ 3/28（土）市民交流プラザ 17:00 / 19:00	3/5（木）コレモ大村前 3/12（木）コレモ大村前 いずれも18:30



発行：社会教育課
 大村市幸町25-33
 ☎54-3161
 （市コミセン内）